

平成28年度 北信越地区審判講習会報告書

新潟県高等学校野球連盟審判部

北支部 遠藤智、石黒裕輔

南支部 根津保広、福原昌宏

- 日時：平成28年5月21日（土）～5月22日（日）
- 場所：長野県営上田野球場
- 講師：（財）日本高等学校野球連盟派遣講師4名
窪田哲之氏、堅田外司昭氏、田中豊久氏、小林憲央氏
UCS講師2名
上野好章氏（長野県）、東城真司氏（長野県）
- 補助講師：平成28年度全国審判講習会に参加した各県審判員1名 計5名
- 受講者：福井県、石川県、富山県、新潟県 各県4名、長野県16名 計32名
- 講習内容
 - （1）発声、ゴーストストップコール
 - ・常に大きな声を出す事で大きなジェスチャーになる。
 - ・アップライトで下を向かない。（球場内において3歩以上歩くことはない。駆け足移動。）
 - （2）球審の基本動作の説明
 - ・ストライクゾーン、スロットポジション、構え方、トラッキングの説明。
 - ・構えた時バッター側のたたんだ腕が体の中心より入りすぎると体が斜めを向いてしまうので注意。
 - ・トラッキングで『球際の判定』をしっかりと行う。（ヒットバイピッチ、ファウル、ショートバウンド等あらゆる球際を見る意識が重要）
 - ・オンザラバー後ゲットセットは一動作で行う。（投手が投げる寸前にバッター側の腕を折る人がいるが、投手からも紛らわしい動きに見えるから）
 - （3）投球判定
 - ・構えの高さは低くならないよう、キャッチャーとの距離も一定に。
 - ・外角の判定を正確に出来るよう、常に後ろの順番待ちの方に見てもらいながら行いました。
 - ・ゲットセットのタイミングを僅かに早める感覚で、待ち構える気持ちが大切。
 - （4）フォースプレイの説明と練習
 - 【一塁塁審】
 - ・ポジションは一塁手の2～3m後方に位置する。
 - ・野手の捕球、走者の触塁、野手の触塁を確認後、アウトのコールはもう一度ボールの確保をしてから行う。

- ・二塁手が一塁側に動いてゴロを処理し送球してくる場合は、ファウルゾーンに出て判定した方が
良い。一塁手の触塁（足離れ）がよく見えるため。
- ・スワイプタグは走者とグラブの間を見に行くが、状況に応じて見える位置が違うので注意。

【二塁塁審】

- ・スタンディングで判定する。ベースに正対後、送球からプレイが起こるまでの時間が短いため
ハンズオンニーをすると目線がぶれてしまから。
- ・ピボットマンの落球に注意。捕球後の送球時かどうかの判断。
- ・走者の妨害行為がないか確認する。
- ・一塁へ転送されてだいぶ経ってからアウトのコールをする人がいるが、それではタイミングが遅
すぎて誰も見ていない。判定を確定させたら直ぐにコールするのが大切。フォースプレーに限ら
ず、どのプレーでもコールをするのに適切なタイミングがある。

(5) タッグプレイの説明と練習

- ・タッグがおこる一点に集中し、捕球の確認をする。
- ・走者の触塁とタッグが離れた場合は、走者の足や手が先に触塁していないか注意する。

(6) 盗塁の判定練習

- ・二塁盗塁は自分のステップの歩数に応じた位置取りが必要。（2ステップの場合はあらかじめ二塁
へ寄った位置取りをしないとプレイに近づけない。）
- ・高校野球審判の手引きの位置にいる場合には、4ステップで判定の位置に移動する。
- ・三塁盗塁は2ステップでプレイに備える。一瞬でプレイが起こるので早い動き出しが重要。

(7) 打球判定の説明と練習

- ・一塁線、三塁線をゴロで通過した打球はベースを通過した瞬間に判定をコールする。
- ・ライン際の外野飛球は野手が取りに行く行為があればノーキャッチのコール。なければフェアの
ポイントでよい。
- ・飛球からは目を切らずに打球を追う。

(8) フォーマーションの説明

- ・各塁での基本的な動きの説明

(9) 座学

- ・平成28年度規則改正の説明
- ・選抜大会を振り返って

5月22日（日）

(1) ゴーストトップコール、ジェスチャーの練習

- ・ジェスチャーは、ストライクコール、イリーガルピッチの対応、ボークの対応、盗塁時の打者の
妨害の対応、ホームランを行いました。

(2) 投球判定

- ・外角や低めのストライクゾーンが正確に判定できるよう周りにも見てもらいながら行いました。

(3) 本塁周辺の説明

- ・打者と捕手の出会いがしらのナッシングは、せいぜい1～2歩目なので、3～4歩目での接触は

どちらかの妨害を適応する。

- ・本塁のクロスプレイが想定される時、タッグアップの確認での移動はダートサークル内で行う。
- ・基本、本塁の真後ろでクロスプレイに備える。タッグの状態で左右にアジャストするが必ずタッグを見れるよう、動きながらの確認になっても仕方ない。

(4) ランダウンプレイの説明、練習（1、2塁間 3、本間で練習）

- ・ランダウンプレイが始まったら塁間の1/4の所に素早く行きあまり動かずにプレイを見る。
- ・タッグをしようとしたら踏み込んでタッグの確認をする。捕球の確認してからコールする。
- ・ボールから目をはなさない。プレイがあったら必ずコールする。（ノータッグ等）
- ・落球、空タッグ、ラインアウト、インターフェア、オブストラクション、に注意。
- ・同一塁に二人の走者がいてコールするときは、セーフの走者から行う。

(5) 投球関連動作の説明

- ・夏場に注意、サイン確認時の汗拭きはボーク。
- ・踏みかえけん制の時、横に大きく軸足を踏みかえるのはボーク。
- ・ロジンを投げつけるのは注意する。つけすぎて息を吹き付け事もダメ、ボール交換する。

(6) フォーマーション練習

- ・クルーの連携を取る。全体を見ることでカバーリングも行えるように。

(7) キャンプゲーム

- ・4人のクルーでノック形式のキャンプゲームに対応（1クルー約7分間）
- ・反則投球、ボーク、各妨害、悪送球、タイムプレイ等
- ・本塁でのキャッチャーオブストラクションに対応。
- ・マイク放送までできるように練習しましょう。

(8) 閉校式

<まとめ>

この度は講習会参加の機会をあたえて頂いた新潟県高等学校野球連盟および審判部の皆様に感謝申し上げます。

二日間天候にも恵まれ、最高のコンディションで受講できました。講習の始まりに講師の先生より、「とにかく大きな声を出すこと」「3歩以上歩かないこと」と話があり、それを実行することでとても身に入る、きびきびした充実した講習会になったと思います。講師や補助講師の方には常に班についても、その都度指導をいただきありがとうございました。受講内容を伝達し、各県での技術向上に努めたいと思います。

この経験を生かし、自信を持った判定で試合を見ている皆を納得させられる審判員を目指したいと思います。

以上